

森啓 自治体政策研究所理事長 「高橋知事と道議会は道民を守る“責務”を果たせ」

昭和42年1月26日第3種郵便物認可 第46巻第10号 毎月1日発行 平成23年10月1日発行 (平成23年9月15日発売) 発行所 株式会社太陽 札幌市中央区大通西28丁目

道民雑誌

10  
2011

# クワダ

## 北電よ、お前もか！ 原発シンポ「やらせ」の全貌

北海道の水産経済力を解剖する〈提言〉古林英一<sup>経済学部大教授</sup>北海学園大 / 宮澤晴彦<sup>大学院大准教授</sup>北大  
〈インタビュー〉横山信一<sup>参議院議員</sup> / 野呂田隆史<sup>道水産林務部長</sup> / 西英司<sup>道漁連副会長</sup>ほか

野田政権「新幹線、TPP、泊原発…」鉢呂経産相就任で北海道はどうなる  
本格始動 マスコミ支持率世論調査「高低14ポイント差」を学術的に検証

元社員が告発！光ハイツヴェラスの不正は「介護報酬だけではない」  
映画館、温泉…いつまで続く新千歳空港ビルのリニューアル効果



539



アトピー性皮膚炎、気管支喘息、  
アレルギー性鼻炎など専門医が語る

# 3大アレルギー 疾患の臨床研究

医療最前線



旭川医科大学医学部  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座  
**原 淵 保明** 教授

〈はらぶち やすあき〉  
1956年生まれの54歳。旭川医科大学医学部卒。82年札幌医科大学耳鼻咽喉科、91年12月ニューヨーク州立大学バッファロー校小児科学講座Research Instructor。93年7月札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座講師、98年11月より現職。日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会理事、日本鼻科学会理事、日本口腔・咽頭科学会理事など。



札幌医科大学医学部  
耳鼻咽喉科学講座  
**氷見 徹夫** 教授

〈ひみ てつお〉  
1953年生まれの58歳。札幌医科大学医学部卒。86年米国ベイラー医科大学留学。96年札幌医科大学医学部耳鼻咽喉科学講座助教授、99年7月より現職。日本鼻科学会理事。

中心とした鼻づまりを引き起こす脂質メディエーター

また、白崎英明准教授を

「粘膜炎上皮特有のサイトカイン」・TSLP、IL33など

の分析と薬剤評価系の確立を行い、新しい視点からアレルギー性鼻炎の治療

戦略の確立を目指している。近年、鼻粘膜の上皮細胞

は単なる機械的防御作用だけでなく、刺激の種類に応じてアレルギーや自己免疫

性疾患などの疾患の種類が形づくられることがわかってきた。アレルギー性鼻炎

では上皮系細胞から産生されるサイトカインが誘導された樹状細胞に変化を起

し、鼻の粘膜自身に病気の「スイッチ」を入れることがわかり、同大学ではこの

サイトカインの産生を抑制する物質（機能的食品）も調べている。

また、白崎英明准教授を中心とした鼻づまりを引き起こす脂質メディエーター

また、白崎英明准教授を

「粘膜炎上皮特有のサイトカイン」・TSLP、IL33などの分析と薬剤評価系の確立を行い、新しい視点からアレルギー性鼻炎の治療

戦略の確立を目指している。近年、鼻粘膜の上皮細胞は単なる機械的防御作用

だけでなく、刺激の種類に応じてアレルギーや自己免疫性疾患などの疾患の種類

が形づくられることがわかってきた。アレルギー性鼻炎では上皮系細胞から産生

されるサイトカインが誘導された樹状細胞に変化を起し、鼻の粘膜自身に病

気の「スイッチ」を入れることがわかり、同大学ではこのサイトカインの産生を

抑制する物質（機能的食品）も調べている。

また、白崎英明准教授を中心とした鼻づまりを引き起こす脂質メディエーター

また、白崎英明准教授を中心とした鼻づまりを引き起こす脂質メディエーター

また、白崎英明准教授を

「粘膜炎上皮特有のサイトカイン」・TSLP、IL33などの分析と薬剤評価系の確立

を行い、新しい視点からアレルギー性鼻炎の治療戦略の確立を目指している。

近年、鼻粘膜の上皮細胞は単なる機械的防御作用だけでなく、刺激の種類

に応じてアレルギーや自己免疫性疾患などの疾患の種類が形づくられることが

わかってきた。アレルギー性鼻炎では上皮系細胞から産生されるサイトカイン

が誘導された樹状細胞に変化を起し、鼻の粘膜自身に病気の「スイッチ」を入

れることがわかり、同大学ではこのサイトカインの産生を抑制する物質（機

能的食品）も調べている。

また、白崎英明准教授を中心とした鼻づまりを引き起こす脂質メディエーター

また、白崎英明准教授を

「粘膜炎上皮特有のサイトカイン」・TSLP、IL33などの分析と薬剤評価系の確立

を行い、新しい視点からアレルギー性鼻炎の治療戦略の確立を目指している。

近年、鼻粘膜の上皮細胞は単なる機械的防御作用だけでなく、刺激の種類

に応じてアレルギーや自己免疫性疾患などの疾患の種類が形づくられることが

わかってきた。アレルギー性鼻炎では上皮系細胞から産生されるサイトカイン

が誘導された樹状細胞に変化を起し、鼻の粘膜自身に病気の「スイッチ」を入

れることがわかり、同大学ではこのサイトカインの産生を抑制する物質（機

能的食品）も調べている。